

高等学校 2年生 地理B

地図を活用して地域を多面的・多角的に調査し、生活圏の地域的特徴をとらえる

◇ 本時の目標 広島市の地形図、ハザードマップを読み解き、災害発生時のためにどのような備えが必要か考えることができる。

◇ 学習の流れ

| | 学習活動 | 指導上の留意事項 (◇) | 評価規準[観点] (評価方法) |
|----|--|---|--|
| 導入 | <p>○ワークシートに沿って学習を進める。</p> <p>Q1：アオイさんは地形図中のA地点に住むことにした。なぜか？</p> | <p>◇生徒用ワークシートを配布する。</p> <p>◇広島市のハザードマップを提示する。</p> <p>◇自分が居住地を選択するつもりで理由を考えさせるようにする。</p> <p>→河川に挟まれた地域や、傾斜地が多い地域のため、橋の両端や、大きな道路の近くが利便性が高い。学校が近いことや駅（アストラムライン）が近いことも理由として考えられる。</p> | |
| 展開 | <p>○主題の提示</p> <p>「広島市の地形図、ハザードマップを読み解き、災害発生時のためにどのような備えが必要か考えよう！」</p> <p>Q2：ハザードマップの浸水、土石流、地すべりの危険箇所はなぜ「危険箇所」なのだろう？地形図から読み取って説明しよう！</p> <p>Q3：ハザードマップをふまえ、この地形図の範囲で居住すると安全だと考えられる箇所はどこだろうか？</p> <p>Q4：人々はなぜ危険箇所に居住するのだろうか？</p> | <p>◇写真資料を提示し、平成26年8月20日の広島土砂災害を受けて防災についていかに取り組むかを自分のこととして想起させる。</p> <p>◇地形図とハザードマップを対比させて考察させる。浸水危険箇所は等高線がほとんど見られない海拔10mほどの平坦地である。背後に急斜面を抱えた地域は地すべり等の危険箇所である。</p> <p>◇地形図を読み取らせ、河川沿いにわずかに存在する微高地や丘の上に居住することで災害に見舞われる危険性は少なくなるが、この地域には限りなく少ない。</p> <p>◇ハザードマップは危険箇所を避けるためにあるのではない。広島市は市域の80%が丘陵地であり、居住に適した平坦地が少ない。加えて、都市の拡大を受けて、周辺山地の中腹部に至るまでに宅地の造成が進んでいる。</p> | <p>・地形図とハザードマップの対比から、多角的に考察し、その過程や結果を適切に記述できる。[資料活用 of 技能] (記述・発表)</p> |

| | | | |
|--------|--|--|--|
| | <p>Q5：ハザードマップを有効活用するために大切なことは何だろうか？</p> | <p>◇ハザードマップは災害時、居住地域にどのような危険があるかを知り、備えをするためにある。必要な備えをしておくことはもちろん、避難所を調べたり、家族の避難場所をあらかじめ決めておいたりといった災害時を見据えた生活を送る姿勢をもつことが大切である。加えて、危険箇所でない地域であっても気を付けるべきこと、備えるべきことがあることに気付かせたい。</p> | |
| 終 結 | <p>① 災害時に危険性が高い地域の特徴を書き出そう。</p> <p>② 日本で土砂災害が多い理由を書き出そう。</p> <p>③ 自分なりの「防災計画」を簡条書きで作成しよう。</p> <p>④ 「防災計画」をグループで発表しあい、良い「防災計画」に共通するものがないか探し出そう。</p> | <p>◇海拔高度が低い、急斜面を背後に抱えている、傾斜地に集落が形成されている、など。</p> <p>◇平地が少ない、山地が多い、都市が拡大し、宅地の造成が拡大しすぎている、急な河川が多い、など。</p> <p>◇自らの居住する地域についての理解度や災害時の備えの有無を踏まえ、自分が今何をしなければならないか書き出す。</p> <p>◇有事の際にいかに行動するかといったスローガンにとどまることなく、日常のなかから気を付けるべきことを見つけ出そうとする姿勢をつくり出し、日々の生活を変えてゆくきっかけとしたい。 →気づきを全体に発表する。</p> | <p>・自己の現状をふまえ、意欲的に「防災計画」を作成し、他者の意見を取り入れながら多面的に自己の「防災計画」を見つめることができる。【思考・判断・表現】（記述・発表）</p> |

資料（出典名）

- ・広島市 25000 分の 1 地形図
- ・広島市中筋学区ハザードマップ
- ・土砂災害ポータルひろしま <http://www.sabo.pref.hiroshima.lg.jp/portal/top.aspx>

生徒用ワークシート【日本の自然災害と防災】

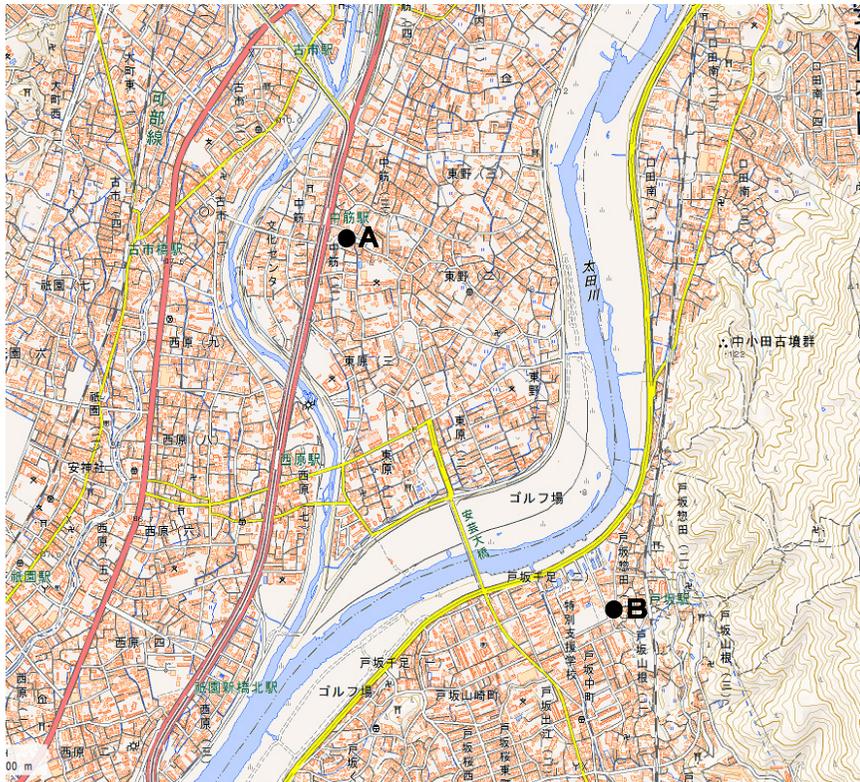
1 目標

広島市の地形図、ハザードマップを読み解き、災害発生時のためにどのような備えが必要か考えよう！

2 次の問いについて、地形図、ハザードマップを使って考えよう！

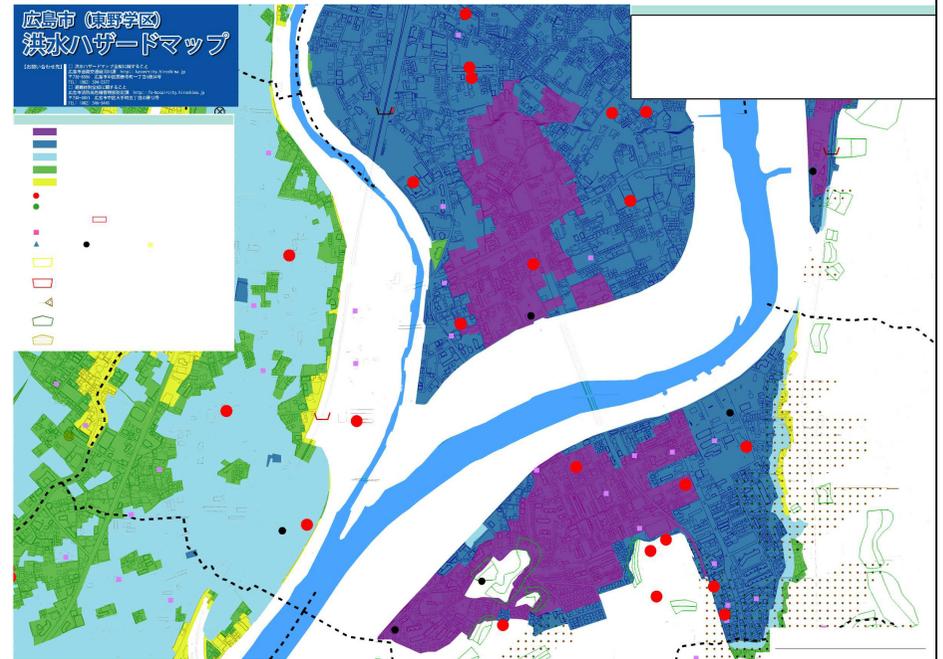
Q1 アオイさんは地形図中のA地点に住むことにした。なぜだろうか？

駅（アストラムライン）に近い、橋に近いなど→利便性が高い



Q2 ハザードマップの浸水、土石流、地すべりの危険箇所はなぜ「危険箇所」なのだろう？地形図から読み取って説明しよう！

地形図と比較して考えると、この地域は等高線がほとんど見られないことから、海拔 10m ほどの平坦地である。そのため、ひとたび洪水に見舞われると浸水被害は免れない。一方で背後に斜面を抱える地域では、山くずれ、地すべりの可能性が高くなり、「谷」付近では土石流の危険もある。



Q3 ハザードマップをふまえ、この地形図の範囲で居住すると安全だと思われる地域はどこだろうか？

河川沿いにわずかに存在する自然堤防上や丘の上に居住することで、災害に見舞われる可能性は低くなる。しかしながら、この地域では非常に少ない。

Q 4 人々は、なぜ危険箇所に住むのだろうか？

人々は古くから防災を意識し、自然堤防上などの微高地に住んできたが、都市化の進展を受けて後背湿地や斜面を背後に抱える地域にも宅地が増加した。これは、広島市の市域の 80%が丘陵地であり、居住に適した平地が少ないこと、都市の拡大により、中心地より離れた箇所、さらには周辺山地の中腹部にいたるまでに、宅地の造成が進んだことなどの要因が考えられる。

Q 5 ハザードマップを有効活用するために大切なことは何だろうか？

ハザードマップは災害時、居住地域にどのような危険があるかを知り、備えをするためにある。必要な備えをしておくことはもちろん、避難所を調べたり、家族の避難場所をあらかじめ決めておくなどの災害時を見据えた生活を送る姿勢をもつことが大切である。

4 この単元で理解したことをまとめてみよう！

①災害時に危険性が高い地域の特徴を書き出そう。

- ・ 海拔高度が低い
- ・ 急斜面を背後に抱えている
- ・ 谷を背後に抱えている

②日本で土砂災害が多い理由を考えよう。

- ・ 平地が少ない
- ・ 山地が多い
- ・ 都市が拡大し、山地と都市部が接近している
- ・ 急な河川が多い

③自分なりの「防災計画」を作成しよう（箇条書き）。

1. 住んでいる地域のハザードマップをダウンロードする。
2. 住んでいる地域の危険箇所を調べる。
3. 避難所を調べる。
4. 家族の避難場所を決める。
5. 家の防災グッズを確認し、最低限のものをそろえる。